



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。手話に関わる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2010年6月現在、川崎2、横浜5、県域10 計17名で活動中!!

横浜市南区・手話サークルかもめ 特別企画

## 「忍足亜希子さん トークショー!」

‘10 7月29日(木) 開演 19:00~20:20 受付開始 18:30

フォーラム南太田(横浜市営地下鉄吉野町駅下車 徒歩7分)

参加費: 800円 締切: 7/15(木) \*定員になり次第締め切り

申込・お問合せ先: kamome@yokohama.nifty.jp

## ～ ‘09 神通研集会報告⑧～

◎「大震災発生3日後の避難所で必要なこと」

<第3グループ>

- ・フライバシー
- ・寝られないこと
- ・食事・トイレ・風呂
- ・自分の体(疲れ)
- ・家族の安全、家族(親戚)への連絡
- ・近所の安全
- ・避難所の環境(暑さ、寒さ、貰えるもの、準備品)
- ・避難所が遠い
- ・情報(自分の家、インターネット・携帯が使えない)
- ・余震
- ・お酒を飲みたい
- ・趣味のゲームをやりたい
- ・防災リュックを持って逃げられるかどうか

## その他の意見

- ・今まで助けてくれた手話のできる健聴者が災害後も支援してくれるか不安
- ・家族が集まる場所は避難所と決めている
- ・ろう者のために、避難時の準備品について話す機会が欲しい
- ・聴こえない人の避難所でのトラブル

## 1~5の順位

- 1、正しい情報
- 2、トイレ
- 3、フライバシー
- 4、避難所の環境(衛生面、暑さ・寒さ)
- 5、心のケア(被災後は普通の精神状態ではない)

## ～ 定例会 ‘10/5/30(日)～

「全国手話検定試験」の申し込みが始まります。まだまだ賛否両論あるようです。手話通訳資格との違いや目的の周知が必要ですね。

意見交換会の中では、聴こえないことの理解を広めていくことの大切さについて話し合いました。

理解していない社会を非難するのではなく、聴こえない障害を伝え、聴こえない人にも一般社会の人たちの意見、感じ方を伝えていく。言っても無駄だから言わない。言われても聞く気はない・・・では、誤解と不満の積み重ねになってしまいます。

はっきりと意見が言い合える関係が出来るといいですね。

【次回定例会】

‘10/6/20(日) 10:00~

横浜駅近辺

## ～サークル研究班メンバーのささやき～

GW中の出来事。嫁の実家で、山菜取りに行こうということになり、皆でルンルン気分が出かけ、"わらびやぶぎ"などないか地面を探していると、娘4才だけ、なぜか上を見ている...?!聞いてみると『さんさいとりさん、どこに飛んでるのかな。いたら、ジャンプしてとるんだ!』と言ってびよんびよん跳ねて、張り切っている(笑...四歳になって間もない娘にとって、さんさいとり(三歳鳥)さんは、なぜかとても愛着が湧く存在のようでした(笑)

おやすみ中の我が家の微笑ましい出来事でした。

アイドルひまちゃん